

# 中川根ふる里通信

## = 第 38 号 =

編集・発行・モアラブ中川根  
 連絡先 〒428-003  
 静岡県榛原郡中川根町上坂尾  
 857-6  
 中川根ふる里通信 係  
 TEL. 0547-58-0015  
 郵便振替口座 00870-4-8156



蕎麦粒山から高塚山への稜線に咲いた  
 シロヤシオの花、こしは何十年に一度と言われる  
 花数でした。 写真提供者、鈴木正文さん、梅高

# 山と川のある風景

## ふるさとと再発見の一つとして

細田洋司

中川根は全町どこへ行っても山と川があります。山は南赤石山系の支脈をかたちづくる山々であり、川は大井川とこれに流れ込むたくさんの谷川です。これらの山と川の風景は、ふるさと中川根の“**貌**”でもあります。

ここに住んでいる私にとっては、毎日見慣れている山と川のたえずまいてはありますが、季節の移り変わりにつれて日々粧いをかえる自然の姿には、いつも新鮮な感動を覚えます。

時折、街へ出かけたり、また旅行に行ったりしてしばらくぶりで帰ってきますと、車窓からなつかしい山々の姿が見えかくれしなから、だんだん近づいてくるのが分かります。

そんな景色を見ていますと「ああ、ふるさとへ帰ってきたのだ」ということを強く感じるものです。

石川啄木は、「ふるさとの山に向かい言うことなし、ふるさとの山はありがたきかな」と詠みましたが、その心情が判るような気がいたします。

「この町は山と川ばかりで何の変化もなく、平凡すぎる……」と思われる方もまた、おおいなるのではないかと思いますが、私はこの山と川のあるふるさとの風景が好きです。

そんな風景の中で、とくに好きな場所と挙げてみ

たいと思います。もちろん、これは私好みの好みと申し上げるわけですから、その点を念頭におかれまして、以下をお読み頂きたいと存じます。

さて、中川根町へ帰るには（都市にお住みの方は里帰りをごされる時には、というこゝとして）、大井川鉄道の電車を利用するか、自動車を利用するか、いずれかであろうと存じます。

まず、電車からの風景で「中川根へきたのだなあ」と思える第一の場所（車窓からの眺めというこゝとして）として、塩郷駅——下泉駅間での景色を挙げてたいと思います。

車窓からは大井川の流れを前景に、対岸の平谷区（その上流の下長尾区の一部が見え、背景に白羽山や大札山などがあらわれまゝ）があらわれまゝ、この場所は、「中川根を望見する」位置である。とでもいうべきでしょう。

朝もやの中で山の頂きが見えかくれる時、また、夕日に映える大井川の流れの彼方に浮かぶ重厚な山容など、走行する電車からは、つかの間



三星山 蕎麦粒山 大札山 白羽山 平谷 猿鼻 下長尾 塩郷

眺めいか望めませんが、私はこの景色がとてもし気に入っています。

下泉駅を出て、トンネルを抜けると、次の停車駅の田野口までは、左側の車窓から山と川の双方をゆっくと眺めることができます。

白羽山や三ツ星山などが、パノラマのように展開し、このふもとを帯のようにとりまく上長尾地区の各集落の姿が見えてきます。

大井川の河原の幅は中流域では、この区間が最も広く、このため山間地にしては、珍しく解放感があります。

順序が逆になりますが、地名駅北側のトンネルを抜けると車窓から塩郷タムの赤いゲートが見え、対岸の久野臨区の集落と茶畑の緑が目に入ります。塩郷タムの背景はもちろん、白羽山と大札山で、この区間（地名駅―塩郷駅）の景色もすばらしいと思います。この三ヶ所と電車から見に好きな風景と一挙げておきます。

つきに車（マイカーなど）からの眺めを申しあげます。同じ風景でも道路から見ると、方向（コース）や高さ（標高）などが、鉄道とは違っていますので、眺望が全く変わってしまいます。

とくに、電車からの風景で最後に挙げた場所については、道路からの眺めは最高で、「すばらしい」の一語に尽きると思います。

県道二四七号線は地名峠を越える形で造られており、この道は鉄道の線路から数十メートル上方に造られております。

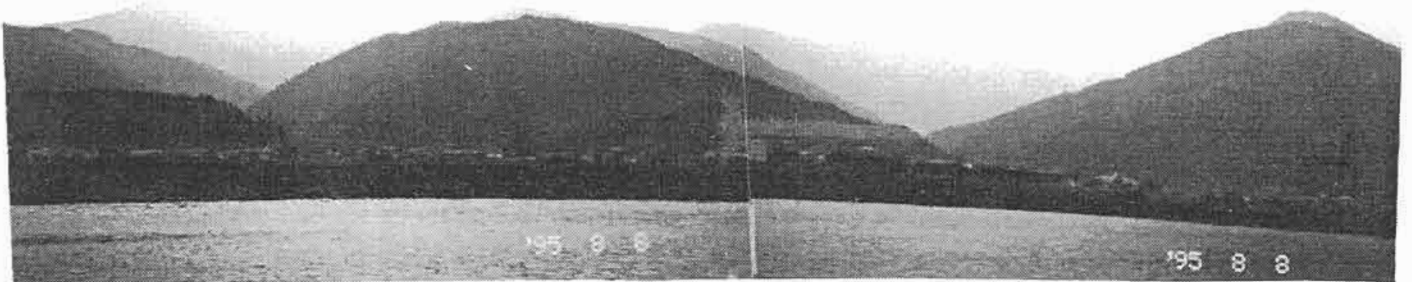
つまり、視点が電車の位置に比べて遥かに高く

なったため、同じ景色でもこれを「ふかん」する結果となり、これが、景色に奥行を与えることになっていきます。

大井川は眼下に流れ、先にあげた白羽、大札の山の隣や背後に蕎麦畑山や板取山など、これらに連なる山々が、幾重にも並び、重厚な南赤石山系の一部をかいま見ることが出来ます。

塩郷タムの赤いゲートは、この風景の中では人工的な構造物としての存在を強く示す結果をもたらしております。

この景色は四季を通して、ふるさと山と川の良さを私たちに改めて



枝松山 三星山 白羽山  
梅島下 手前大井川の流れ 高郷 大井川鉄道線路下より夕映之上長尾遠望 上長尾

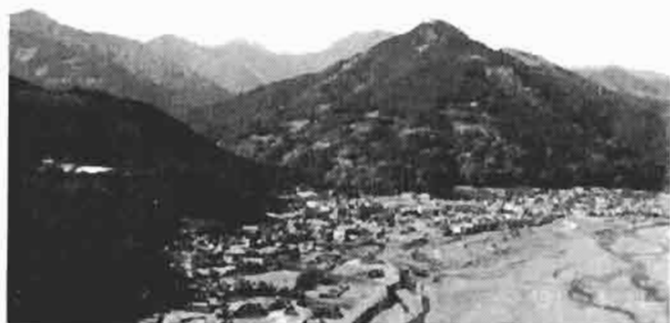
認識させてくれるものであると思います。

峠を通るたびに私はいつも、この眺めを楽しみます。つぎに挙げたい場所は、中川根の中央部である上長尾地域が一望できるところで、下長尾——梅島間（国道三六二号線）の通称、ヨコガレ、といわれる地点から大井川上流方向を見た風景です。

この地点は電車の線路とは反対側、大井川の右岸に なります。

車窓からは、進行方向の前方中央に白羽山が大きくそびえ、ふもとの集落と対岸の田野口区の一部が見えてきます。

大井川は右手前方にあって、やや右岸へ蛇行したあとを示す広い河原が展開し、その上手に上長尾——田野口



ヨコガレ上より上長尾地区遠望

を結ぶ中徳橋が望見できます。

私は来町された方に、「この場所へくると「ここが中川根の中心部です」といつも申しあげております。もちろんこの地区には、役場庁舎をはじめとする官公署、小中学校、金融機関や各種団体の事務所等がありますから、名

実ともに中心部であるわけですが、風景としても、この町の「顔」として紹介できるところであるという意味も含めて申しあげております。

道路からの眺めとしては、この二カ所を挙げておきます。

またこの地点以外にも、すぐれた風景がたくさんあります。紙面の都合ですべて割愛させて

頂き、先に述べた場所からの眺めを、ふるさとの「親」の代表として挙げたいと思います。町内の方かたはもとより、ふるさとを離れられた方がたにも、せむともふるさとの山と川の風景を「再発見」して頂きたいと思

いまして記してみたい。お里帰りなどの折りの

ご参考にして頂けましたら、まことに幸甚に存じます。

平成七年 六月 記

地名峠より、久野脇地区から、塩郷ダム、塩郷地区、三津間宮山原から、下長尾背戸山、遠く、白羽山、大和山、蕎麦畑山、板取山などは、好天烈暑の為、空と交わってしまっております。久野脇前は、親水公園くのわきマゼンタ場





# 松下麟一さん、自分史

## 「土と人」を出版



七月三日付静岡新聞「大自在」をこぼれに合った方が大勢いらつしやると思いますが、再掲させていたいただきますと、

★川根で農協運動ひとすじに生きてきた松下麟一さんが「土と人」を自費出版した。底辺をはいすり回った庶民の記録である、と松下さんは述べている。

★大井川の水、山の深さがそうさせるのだろうか。川根路には、しんの強い人、働き者が多い。中でも松下さんはクリスチャンで弱い人の側に立ち、行動してきた。松下さんの「自分史」には、大正生まれの情熱が注ぎ込まれている。

★川根は開拓の歴史である、松下さんは大井川にプロペラ船が走ったころに思いをはせ、ムラの成り立ちを追いかけて、初めて記述。次に戦争の傷あと、戦後の激動期を具体的に指摘、時に病める農協に怒りを示す。

★松下さんは農業に誇りを持っている。だから日本農業に危機感を抱く、指導者の不在が歯がゆい。松下さんは榛原町にあった培本塾<sup>ほんほんじく</sup>で学び、小田原勇さんに強い影響を受けた。また開拓者精神を同郷の先輩中野幸徳さんから受け継いだ。

★松下さんは交遊関係も豊かだった。その一人、平岩ろ枝さんとは静岡新聞社の連載小説「おんなみち」の

川根取材で知り合った。平岩さんは、その時頂いた川根茶を「舌に甘く、やわらかな香り」とほめた。★松下さんは峠の人である。空を背に、村落を見渡す。實業剛健、向学心に燃えた記録を読み、つちくれの包いと久しぶりにかいた気がする。以上

その後、同新聞、読者のことは、に松下さんより、「大自在」掲載のお礼の言葉も載せられた。四二〇ページにわたる「土と人」もある農協運動者の生涯、は六月十日に発行された。松下さんの歩んで来られた道を、克明にしかも装飾なく切々と書かれている内容はズシリと重いものでございます。

——平成六年、満七十七歳になったので、自分の歩いた道を記録しておこうと思いついた。自分がこの世で為した事は極く小さい事で記録しておく必要はないが、一箱に歩いた人々の行った事の中には、どついても書き残して置きたい事が沢山あるから、——に始まり、序章「開拓始祖」ワテ（松下家屋号）とその周辺の人々、第二章「虚しき聖戦」第三章「民主主義の光と陰」第四章「ムラの象に支えられて」第五章「農協合併と基礎づくり」第六章「病める農協、死の社会」……は、命をかけて育てて来た農協が、独占資本の枠内に組み入れられ、経営主義にどつぷり浸かり、魂を失い……この病める農協に後髪をひかれる思いで定年退職するまでの記録である。——五年ほど前より腎不全と病われ、人工透析に週三回島田の病院に通院されておられます。ふる里通信にて内容をこれから少しずつご紹介したいと思っております。松下さんの電話番号は(0547)561070です。

# 中川根の温泉、町民は利用出来る日を待っています。

- ふる里創生の夢をのせて平成4年に試堀されました。(ふる里通信 29号)
- 平成5年に温泉であると判明されました。(ふる里通信 32号)
- 温泉利用案を広く町民に募集しました。(応募の中より優秀案には賞が与えられた)
- ふるさとづくり委員会も出資しました。
- 昨秋から今春にかけて、川根町でも温泉を試堀。みごと泉下×番目？の湧湯量の温泉を掘り当て、(笹間渡、大井川と大井川鉄橋、県道隣接)と、早く入浴施設を作って、ゴールデンウィークから開業。手軽に利用出来ることから連日大盛況。豊富な湯量から将来は温泉街がつけられるとか。
- ★ 以前 広報中川根にて 紹介された 中川根町源泉のデータでは 1分間に約2.1リットル 1日に2,500リットル 温度は 25℃ 塩分も含んでいて、体に良く、何倍かというため利用出来る 良質温泉とのことでした。笹間渡温泉に比べると 湧湯量はさうと計算して  $\frac{1}{2.25}$  とはなっていますので、すでに開業して 3,4年がたつ 本川根町白沢温泉\*もりのいづみ、みどりも 湧湯量は多いと聞きます。
- ★ 応募案や ふるさとづくり委員会の意見も 初の中川根温泉街を夢見た方々も多いかと考えられますが、周囲の状況から 見ても、中川根町民 堅気を見ても、その様な方向は 修正されてしいるべきかと存じます。
- ★ ふる里創生資金の使い道について 1番は 地場産業会館で、温泉試堀も町の全体を夢とした、地場産業会館は 茶茗館として「中川根の顔」として、主に町外者向けに設立されました。
- ★ 中川根町は、お茶と高齢者がワカる 元気者の町という事で、テレビ 全国放映が度々あります。増々健康な住らしをする為に 保健センター+入浴施設が出来たら 高齢者一杯のこの町も 希望が持てそうです。
- ★ 中川根源泉付近は、大井川近く、お茶の広場です。川の近くの広場は、テレビへ続く。

茶里夢の泉

川根町 笹間渡温泉



露天風呂からSLを眺めるひとときを!!

県道63号線沿いに、泉質：ナトリウム・塩化物温泉、温度47.6度、自噴：563リットル(最大推定3,024リットル)が湧出し、5月に待望の温泉施設が完成、連日大盛況

東京のかたすみから(1)  
テレビの始めから終りまで

『ベトナムと破れた夢』

渡邊 實夫



多くのテレビ愛好家は多分ご記憶と思うが、去る四月二十九日(土)テレビ朝日の報道番組「ザ・スクープ」で、ベトナム戦の写真を撮り続けた報道写真家中村梧郎氏の出演による「ベトナム戦争枯れ葉作戦老提督の梅根……」と題するレポートが伝えられた。

二十数年前のベトナム戦争において、アメリカ軍を苦しめたゲリラを退治するには、その出沒拠点となっている密林を枯して一掃するのが最上の策だと考えたアメリカは、木を枯らすダイオキシン(毒薬)入りの化学剤を飛行機で散布した。

この枯れ葉剤が撒かれた側のベトナム住民に与えた被害はその後も余りにも有名であるが、胎児への影響により奇形児が



生まれ、更にその子供にも、と第三世代にまで重症障害が出ています。他方

猛毒であることと知らされずに枯れ葉剤を散布した側のアメリカ軍人・その子供・孫にも又障害が現われて今なお苦しんでいるやうである。

この枯れ葉作戦を指揮したラオス老提督も自身の息子をこの枯れ葉剤で失っている。にもかかわらず、アメリカの国策として枯れ葉剤散布は間違っていないか。たと今も信じているのだが、彼は引退後ベトナムを訪れ枯れ葉剤被害者を見舞って金銭的な又精神的な援助を続けており、それを老後の仕事としているという。このような、つらい人生を見せながら平和・反戦を訴え続けていると云う話であった。

ベトナムのこのレポートを聞いて私の頭は忽ち二十数年前に戻っていた。当時ベトナムから早稲田大学へ留学し、テレビ研修のためにテレビ朝日の私の部署でテレビ放送の勉強をしていたベトナムの青年がいた。グエンタンワン君である。

ワン君は日本人が経済成長で失った笑顔と温かさをもっていた。背の高さも私ぐらいで、考え方は私の物差しと似ていて、話をしている居心地がよかった。

父親はベトナム大使として日本に駐在、弟妹五人は夫々日本の学校に通っていた。私の家へも遊びに来たことがある。その時は、親戚、友人が皆ベトナム戦に参加していること、自分達だけが兵役を免除されていることなど聞かされた。

又フランスの植民地時代から戦いに備えて大切なのは身につけておき、「タンス預金」の方法をとっていることと、金や宝石など手足につけている本物を見せてくれたりした。そのグエンタンワン君一家は

サイゴン陥落直前に突如として私達の前から姿を消して  
了ったのである。

私は在日中のブエンタンワン君から、ベトナムに平和が来  
たら直ぐ帰国して、テレビ放送を始めたいか、ウー箱にや  
って欲しいと頼まれていた。私も本気にこの話を受け、  
それ以後強く「ベトナムでテレビ放送」と夢みるよ  
うになった。

海外でのテレビ放送となると日本のテレビをそのまま  
持って行くことが出来ない。国情によりテレビの放送方  
式が違う。……当時海外取材で気を使ったのが、行先国  
のテレビ方式であり、方式が違うと全くテレビの画になら  
ないからだ。現在では変換器という装置があるので、日  
本からロシア・フランス・イギリスへ送ることも、逆にこ  
れらの国から受けることも可能である。

この方式と云うのは世界を大きく三つに分けている。  
即ち、自由主義社会のアメリカと日本はNTSC(国際テ  
レビジョン標準方式)、共産主義社会の旧ソ連、旧東ドイ  
ツ、フランス、エジプトなどのセカム方式、イギリス、イ  
タリー、中国、北朝鮮およびイギリス、フランスの植民  
地であったベトナム、インド、オーストラリアなどのパル  
方式である。

これは主義・思想・民族性の違う各国の権力者が国際的  
ステータスを維持しようとして、技術専門家をかかえ  
こんで自国を主張した結果によるものである。そのた  
め各国は自国の方式を如何に特徴づけるかに苦慮した。  
私からみると日本・アメリカのNTSC方式がベターだ  
とわかってはいるが、国情・政情の違いから又メンツ上  
そのままこれを受け入れることが出来ず、ナシすつ変

えてセカム・パル方式としたものと思われる。

このように純粋な技術原理であるテレビ方式にまで、  
各国の思想・政治・経済の差違や主義主張が入ったのは、  
今や一国の統治者(支配者)がテレビの影響力・支配力  
の大きさを考慮せざるを得なくなった結果だろうと思う。  
これはフランスのことであるが、昔から芸術の都、パリ  
のスマートでおしゃれなパリジエンは衣装・服飾等につ  
のプライドを持っている。テレビにもその精神があらわ  
れて、他国よりも、もつと髪や毛などの細かく映るよう  
に高精度(画を書く時の鉛筆の芯の細さと半分にするよ  
うなもの)の走査線八百本方式(日本は五百本)を採用し  
たこともあった。

さて、私は「いざ出陣」となってベトナムへ行った時、  
どの方式をとるべきかを考えた。政治情勢によればソ連  
共産主義色の強い北ベトナムはセカム方式、サイゴンのあ  
る南ベトナムはアメリカ軍が支配しているのでNTSC方  
式になる。更に歴史的にはサイゴンはフランスの植民地  
であったから……など頭の中で半ば真剣に考え、各  
方式を調べひそかに待機していた。

しかしながらその後、サイゴン陥落、アメリカ軍撤退、  
ブエンタンワン一家の離散、生命によって、東南アジアの中心  
となったであろうベトナムでのテレビ局建設という私の  
の夢は、はかなく消えうせてしまったのである。

ブエンタンワン一家のように祖国を失うことの意味、  
夫々の人生を一変させる戦争の非情さを身をもって味  
わった次第である。

さて、私の夢は破れたがベトナム戦争終結後、ベトナム  
のテレビ方式は共産党国营放送としてのセカム方



式とNTSCの二方式が採用された。(世界中で二方式の放送を行っている国は他にない) テレビ朝日の元アナウンサーで現在ハノイ支局長の北村元君の電話連絡によると、その後パル方式に変わって現在に至っているようである。これは多分、冷戦終結、ソ連崩壊、中国の動向などからベトナム自身の国際市場経済化路線への転換によるものと思われる。何れも政治、経済情勢の変化に對心したものと思うが、テレビの純粹な技術方式までインテロギーによって動かされるものと今更ながら感じる。

南北ベトナム統一の二十周年記念式典で、共産党一党独裁体制をとる現ベトナムの最高指導者ドムオイ共産党書記長は「報道は人民・国家の利益に奉仕しなければならぬ。国家の政治・社会状況を不安定にする目的で、報道の自由を乱用するのは許されぬ」と述べたと読賣新聞林田裕章記者は報じているが、報道の自由が定着している日本との開きの大きさを痛感する。

一九九五年六月十二日記

この原稿を書くにあたって、ベトナムハノイ支局長の北村元君にお世話になった上に、「ふる里通信」へ次のような特別な寄稿をいただいた。



## 旧北ベトナムでみる枯れ葉剤

テレビ朝日ハノイ支局長

北村 元

ベトナムドク君という被害者に代表されるアメリカの枯れ葉剤「エイジェント・オレンジ」は、ランチャー・ハンド作戦で一九六一から一九七一年までの十年以上にわたって撒かれ続けた。ベトナムドク君に代表されるということは、他に多くの障害児がいるということだ。その通り、ベトナムドク君の陰でまだ多くの人が苦しんでいるのが現実だ。しかし、ベトナム戦争が終結して二十年たって、枯れ葉剤についてあまりにも少しいことしか知られていない。また、知っている人も少ない。アメリカが行った非人道的なこの作戦にもっともっと光があてられてしかるべきではないか、と思う。

私は先日、ハノイ郊外の平和村を訪ねた。七十人の障害児が無心に勉強していた。平和村はベトナム全国に七ヶ所あるが、この平和村は、南ベトナムで戦闘に参加した兵士の家庭に生まれた障害児を預かっている。

発足当時二十三人だったこの平和村も、今では七十人という大所帯になった。それだけ、被害が広がっているわけだ。南で戦闘に参加した兵士は、中部南部の山岳地帯で枯れ葉剤を直接浴びたり、撒かれた後でその影響を受けたものだ。

兵士の子弟というだけで、何の罪もない子供たちが、これほど影響を受けているとは思えなかった。国語の

時間に私は入って行った。  
 どの子供もかわい。精一杯の笑顔で迎えてくれた。  
 三人姉妹のうち一人は休みだったか、二人で歌を歌って  
 くれた。九才と十一才。発育不全だ。日本では考えら  
 れないくらい背の低さ。その可愛い歌声を届けたい。  
 二人の歌の歌詞だ。

いま、私たちは、平和村に住んでいます。

お母さん、私たちの手と足は

治っていないけど、

友達と楽しく、歌って、踊っています。

樹々は緑なのに、

私たちは枯れ葉のよう……

悲しい歌が我々の心にズシンと響く。



リハビリの部屋に行った。手足にマヒが出ている男  
 の子は、階段の上り下りの練習をしていた。カメラを向  
 けると、サービスピ精神を発揮して、いつまでもぐるぐる  
 と上り下りを続けてくれた。彼らには刺激が必要だ。  
 声をかけることが大事だ。我々との連帯を求めている。  
 彼らも我々の中に入れることが、大きなリハビリになる。  
 しかし彼らに援助がこない。枯れ葉剤の原因調査  
 はいまこそ続けなくてはならない。  
 北には二重胎児がいなくて、なぜ南には二重胎児がい  
 るのか。なぜ、アメリカの枯れ葉剤の被害者には、二  
 重胎児がいなくて、南ベトナムにはいるのか。

米越国交正常化を迎えても、彼ら障害児にはベトナ  
 ム戦争が何だかわかっている。  
 障害児を抱える家族のベトナム戦争は  
 永年に続く。  
 一九九五年七月二十日 記



沢田教一写真集「戦場」より、毎日新聞社発行、ピュリツァー賞受賞作品。

ふるさと夜話

片足供養の足仏さん

原田耕作



立派な建物の中に鎮座して、専ら觀光のお役目とつとめて居られる神様仏様は別として、村はずれの、ささやかな祠のなかの地藏様、雨風にさらされて道邊に立って居られる仏様達は、何かしら淋しく親しく、昔を知らない私共に、時には昔を思い出せよ、と居られる様な気がする。

これらの野仏達は、それぞれに一つの役目を背負わされて、何百年もの歳月をジツと立たれて居る、とに私共は興味と親しみを抱くのである。一体野仏達の役目はどんな役目か？それは、現世の人間共を痛苦災厄から救って下さる有難い役目である。



これらの役目は昔、医療が発達せず、病氣平癒を神仏に頼って居た時代の遺物であるが、近世の戦争でも必ず神風が吹いて日本は勝つと信じて居た国民であったから、昔から神仏にすがる気持ちには当然のことであったと思う。

古い松や杉の大木を御本体として、人間共が手を合わせ頭を下げる大日如来と言う仏様は耳の病を癒して下さると言う。山中や村はずれに在って、物乞いの宿泊所ともなったお堂の主薬師如来は眼病を癒して下さる仏様。



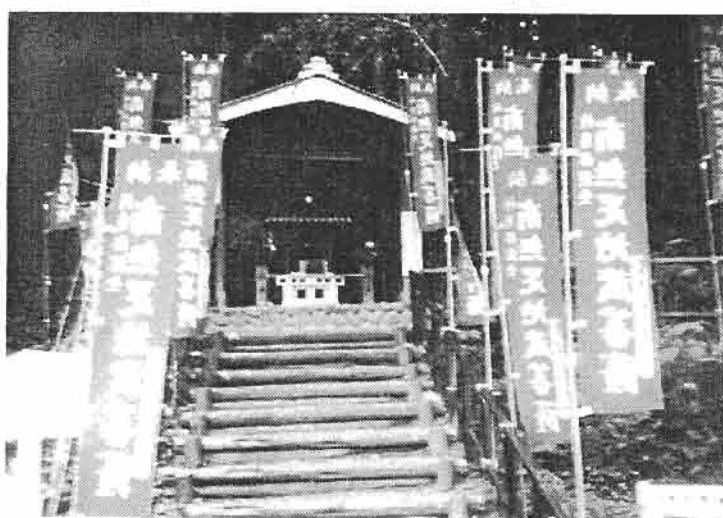
社宮司様という神様は口中の病

気に、瘡地藏様は下の病に、いほとり地藏様は美人念願の婦人のために、お産育児のために子安観音様、旅の道中安全の為に道祖神様と、内科、外科、耳鼻科、産婦人科、皮膚科、馬頭観音は獣医科と、それぞれに所属して居る医療科があるからおもしろい。

静岡市清沢には酒吞地藏という珍しい仏様がある。禁酒を望む人の祈願する地藏様という。静岡市瀬名には最近教育地藏という仏が出来た。天神様同様、学問のため

の仏様で、いずれも精神科に属して居る。川根町家山の足地藏さんは、当然外科（整形外科も含む）の仏様で、かなり有名な地藏さんだと思ふ。萬華山三光寺の境内である寺の裏山に鎮座して居るが、地藏尊と言っても墓石を祠の内に納めてあって、墓表に右足を一本ききさんである。

由緒によると、明治十四年（一八八一）四月十日大雨増水、その後十八日、家山河内川下流で右片足発見、検死の結果、溺死によるものと推定されたが、何処から流れてきたか一切不明であった。三光寺十八世大鐘一牛和尚が、三光寺出入りの西村庄太郎氏を頼み、境内



家山、足地藏菩薩 撮影者 柳原武久さん

埋葬した。命日は大雨の日の明治十四年四月十日、戒名は一山祐跡信男。

三十三年忌に当る大正三年(一九一四)一月

志太郎滝沢村(現在藤枝市瀬谷谷)の鈴木平次郎といふ人が、家山奥の四山に入職、調査の結果大水により中井平沢を流れた炭焼人夫と確められた。その後、鈴木平次郎の子息上山次郎なる人と家山の西村庄太郎氏二人の発願にて、大正三年四月、足地蔵として建立供養した。三光寺住職二十世不味聞丈大和尚の時であった。

足の病気怪我等に依り、歩行困難な人を助ける仏として立願供養の参詣人が増えたと云う。癒った人は立願果しとして、

わらじぞうりを作って供える風習がある。現在の足地蔵尊は参道に幟を立て連ね、家山の觀光の一役も買って居る様子である。遠くは四国方面のらの寄進もあり、かなり有名になったと思う。

足の仙縁と言えは家山だけと思つていたところ、燈台下暗し、思ひもよらず我が町下泉にも足仙縁が在すことを知つて驚いた。家山の足地蔵は墓石を祠のなかに納めてあるが、下泉の足仙は、下泉原の共同墓地の一角に雨風にさらされて居るささやかな墓である。土地の人は足墓さんと呼んで居る。

家山の足地蔵さんも下泉の足墓さんも、どちらも墓表に足一本を刻んで在る。但し、家山は石足であるが、下泉は左足である。明治二十九年九月二十日(一九一六)現下泉原の松下待男さんの四代前の吉五郎さんが洪水の後、大井川原で左片足を見つけたという。その足は右の誰



か、どこから流れてきたか、全く判らないという。千頭山の井川山の山林人夫ではなかつたかという推測があるだけである。

吉五郎さんは永年リユーマチで足を病んでいたので、どう

か私共々足を患う人を救つて下さい。とねんごろに葬つて供養したという。足を

見つけた日を命日として、明治二十九年九月二十日、戒名が秋山足縁信士、表面に左足一本をきざみ、側面に松下吉五郎立之と印してある。

松下さんの家は当時は大井川端にあつて、後に下泉原へ移転したとのことである。昔、下泉に東泉寺という寺があつたが、とうの昔廃寺となつていたので、足の供養は智満寺で行つたものと思つたが、現在の松下家には何等詳細を知つて居る方は無く、口伝も無く、また町内に足墓についての話を知つて居る人は全く無い。

共同墓地の片隅にぽつねんと立って居る足墓さんであるが、足と思つた人達が時折、お参りするという。



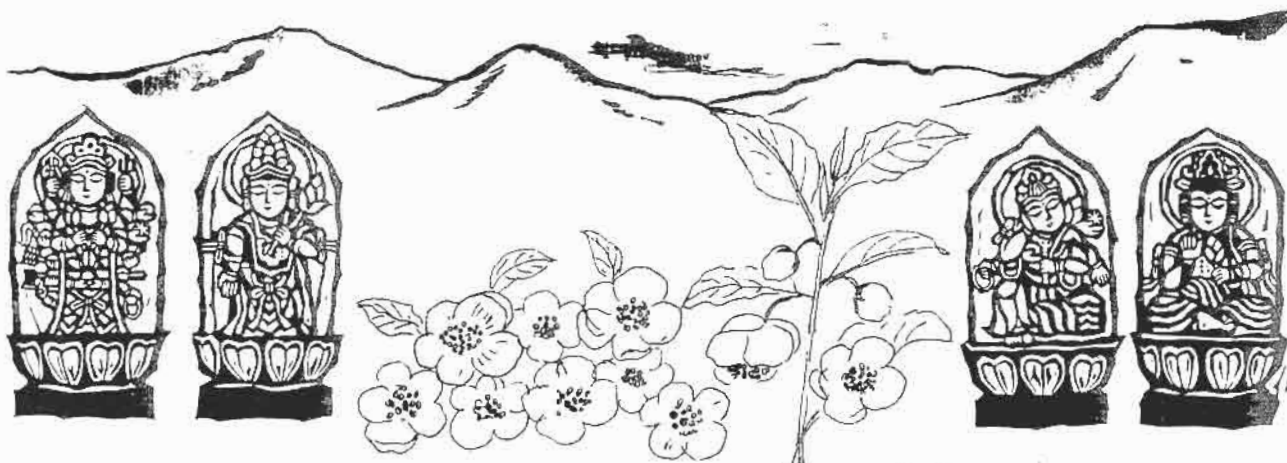
下泉原の足墓さん 撮影者 柳原武久さん





足墓さんを唄う

お茶の花咲く村はずれ  
 足を一本葬むつた  
 古い小さいこのお墓  
 足墓さんとは人は言わ  
 誰の足だか判らぬ  
 吉五郎さんと言ふ人が  
 大井川河原で拾い上げ  
 立てた情のお墓です  
 千頭山から来たものか  
 井川奥から流れに  
 何にも判らぬ足一本  
 吉五郎さんの念願で  
 足を悪い人々と  
 どうか助けて下さいと  
 墓表に刻った左足  
 風にさらされて雨にぬれ  
 足墓さんほつりそりこ  
 お茶の花咲く村はずれ



家山の足地蔵尊は右足、下泉の足墓さんは左足、右向き左向きの違いはあるが、共に腿から下も大きく刻つてある珍しい仏様である。

調査に当り足腰の劣えた私を援けてありちと廻つて下さった小沢博さん(下長尾) 柳原武久さん(瀬戸) 達に深謝いたします。

本稿は家山の田村保壽先生著「三光寺と町の伝説」先生の談話、三光寺住職の談話、下泉松下待男さん(宅家人)のお話等参考にしたことを附記致します。

ふるさと夜話 第十一話 終り

原田さんは、こころ八十六歳です。

ふるさと夜話も 渡辺さんの「東京のかたすみから」と同時に寄稿して

いただいた、早くも十一話です。泉の橋に湧き出るふるさと夜話

も原田さんの旺盛な研究心探求心があって

かろうじて生まれるのだと思えます。

愛読者の比呂さんご声援を送って下さい。

電話は

0547  
 1 56  
 1 0681



定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 年 共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方、初めてふる里通信をご覧になられる方には郵便振替用紙を同封致しますから、引き続きご購読をお願いします。年間予約600円(150円×4回)のご送金をおすすめしますが、3年分位(1800円)でもお預り申し上げます。

購読を止めた時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

払込通知票 00870-4-81556  
加入者名 中川根ふる里通信係  
ふる里通信に関する問い合わせ先・及  
発行責任者

428-03 静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6

小 沢 節 子

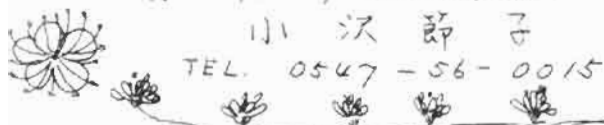
TEL. 0547-56-0015

6ページの続き

とは言、町内のキャンプ場は夏休みに入ると連日の大にぎわいとなっております。先日NHKテレビで、国の補助金事業で(厚生省、農林省、建設省など)国内キャンプ場だらけになってしょうから、アウトドア施策も陰りを見せている。この事でしたか、まだまだ川根地区は大人気の様です。温泉にも入れるキャンプ場とすれば、対外者にも受けるかも知れません。

\*温泉施設をつくるには莫大なお金がかかる様です。とても無理な事だった………と言う事になるかも知れません。それも不況のご時世ですから仕方がないかも知れません。が、「湧いた当時のこと」「ふるさと創生の夢をのせて」の初心に今一度帰ってほしいものです。

\*我が町は週2回65歳以上の1人住らしの世帯に給食サービスと実施しております。1人住らしの方々や、高齢者世帯に「温泉サービス」をしてあげたら、本当に素晴らしい町になると思います。



「国策を誤り、侵略によりアジア諸国の人々に多大な損害と苦痛を与え、心からお詫びします。」  
終戦五十年に一応節目が出来た言葉と受けとめました。  
いつまでも平和を願う国であります様  
いつまでも戦争をした事をわすれない国で  
あります様 お祈りしました。

庭木も茶畑も青息吐息。人間もやる気をなくしてしまっていますよね——。天明、天保の大飢饉も異常気象が三年以上続いたと言われている。  
表紙のシロヤシオの花ですが、蕎麦粒山周辺に百年以上の樹木が群生しております。山全体が白く化するほど見事な花が咲きました。三十五年五十年に一度という花の数だと言われています。

今年も冷夏?の長期予報は見事に裏切られ暑いくい日々が続いております。去年以上に暑く感じられるのは、例年の様に夏特有の湿気、夕立ち、入道雲などは、少しもあらわれず、乾燥した、ぬける様な青空から太陽が散々と降りそそいでいる為でしょう。か、参議院議員選挙投票日から今日まで一日も雨の日がありません。くわしく言えば、おの、雨が二回、ありましたが、

